5　実践発表

「学校応援団」の取組

宮代町立須賀小学校の取組について

＜実践の概要＞

〇家庭・地域との連携や学校応援団の取組を、目指す学校像や本年度の重点・努力点に位置付けるとともに、学校応援団の実施要領を作成し、活動を推進している。

〇学習支援、安全、図書、環境整備の４つの活動組織を設け、それぞれに２名ずつの推進長を、また、推進長を束ねるコーディネーターを配置している。

〇多くの学習支援を行っているが、特に、米作りでは、地域の方々からの支援を受け、活動を進めている。収穫した米は、学校で行われるバザーで販売している。

〇年に２回の学校応援団連絡会議では、活動の充実を図るために、それぞれの活動について話合いを行っている。また、支援していただいた方々への感謝を表す場として、感謝の会を催し、子供たちからの感謝の言葉や歌、鉢植えのプレゼントなどを行っている。

＜アンケートから＞

〇地域と連携することで、子供の安心、安全や学力向上などに効果があることが分かった。

〇これから本格的に応援団を募集するので、学校応援団の実施要項、応援団活動計画等参考になった。

〇学校応援団の方々との連携は、欠かせないと感じました。

〇本校でも、学校応援団コーディネーターの方が素晴らしい働きをしてくれていますが、後任がなかなか見つからないので苦労しています。

【指導講評】　埼玉県教育局市町村支援部家庭地域連携課

＜推進体制について＞

〇家庭・地域との連携や学校応援団の取組について、目指す学校像に位置付けたり、実施要領を作成したりすることが、学校応援団活動の理解につながる良い方策になっている。

〇コーディネーターや推進長などが複数名いることは、相談や人脈の活用、負担軽減など、活動の充実や継続につながるので、良い取組である。

＜学習支援について＞

〇米作りでは、田植えや稲刈りの体験だけでなく、販売などの活動を入れているということで、学習の幅が広がるとともに、費用面でも活動の継続が図られるという良さがある。

〇今後の学校応援団活動は、学校の支援をするといった一方向の活動ではなく、須賀小学校のような、互いの良さを実感できる連携・協働した双方向の活動にすることが重要である。

＜活動の充実を図る取組について＞

〇須賀小学校のように学校応援団連絡会等を開き、学校と地域の間で情報を共有し、活動内容の確認や活動後の振り返りを実施することが、活動の質を向上させることにつながる。

〇ボランティアである学校応援団活動を支えているのは、子供の笑顔と感謝のメッセージである。それが、ボランティアのやりがい、生きがいにつながっていく。